

実態に応じて学びを深める性教育の指導方法・授業デザインについて ～小学部児童の月経前指導をととして～

後藤 純子 (熊本大学教育学部附属特別支援学校養護教諭)
久保 昌子 (熊本大学大学院教育学研究科教授)

研究の目的

思春期は、自分の心身に表れる変化を通して、体や心、健康について興味関心を深めるチャンスである。また、本学習と関連して「はずかしい」ことを学ぶことで、将来、性被害等の予防の一助となることも願い、本研究に取り組んだ。

児童の実態・長期目標

	実態及びニーズについて	長期目標
小4 Tさん	・こだわりが強く、自分だけのルールを決めて行動することがある。興味関心が限られている。 ・読み書きは得意、反面「なぜ」「どうして」等の問いを考えることは難しい。 ・月経について指導を受けたことはない。	月経を迎える際に、パニックや混乱することなく、受け止められるようになる。
小6 Aさん	・言葉でのコミュニケーションは上手である。 ・「なぜ」「どうして」等の問いに対して、言葉で自分の思考を表現できる。読み書きは苦手である。 ・過去に月経前の指導を受けている。家庭でも生理のことを話したり生理用ポーチを準備している。	月経について、すでに持っている知識・技能を再度定着して、考えを深められるようになる。

授業時数の取り扱い・内容

体育(保健領域) 平成30年11月～12月 3回シリーズにて実施

第1次: すてきな女の子になろう①～思春期の体の変化～

第2次: すてきな女の子になろう②～生理について～

第3次: すてきな女の子になろう③～生理と思春期の女の子のマナーについて～

本単元のねらい

- ・自分の体が成長し思春期には体に変化があることを知る。
- ・生理時の対応について理解することができる。
- ・思春期の女の子のマナーを理解することができる。
- ・性被害にあわないためにも「はずかしい」ことを学習する。

実態に応じた授業作り ①授業のデザイン・展開の工夫

①教える場面 (パソコン・テレビ使用)



まずは
教師が
説明

②児童が思考・判断・表現する 場面(ワークシート・質問)



正しい順に
並び替え(も
しくは記入)

③再度教える場面 (児童にて画面の 文字を読む)



教師が再度説
明(もしくは児童
が読む)

④実技



正しい方に
捨てるよ

留意点

・授業内容は興味関心のない分野だが、読み書きが得意なTさんに対して:

ワークシートに記入したり画面の文字などを読む場面を設け、テンポよく働きかけ授業に意識を向けさせるようにした。

・読み書きは得意ではないが、授業に興味関心もあり言葉で表現をすることが得意なAさんに対して:

一歩ふみこんで「なぜ? どうして?」等の質問をして考えを引き出し、共有する場面を設けた。

実態に応じた授業作り②教材の工夫

使用する言葉の整理 (キーワードの整理・厳選)

こども・おとな・ししゅんき・へんか・むね・こし・わき・せいき・せいり
・しきゅう・ポーチ・ナプキン・生理用ショーツ(パンツ)
・サニタリーボックス(専用容器)・女の子のマナー・はずかしい

具体物を使用・随所に行動化

第1次の授業にて:

- ・児童の好む柄の下着(ブラジャー)を準備
- ・こちょこちょカード(女の子の体の学習をすることを意識づけるため。児童の好む関わりを取り入れて、主体的に授業にのぞめるように・楽しい雰囲気づくりを心掛けて)

第2・第3次の授業にて:

- ・生理用ポーチの準備
- ・サニタリーボックスの準備・動画使用
(「ここにすてます」の表示、ゴミ箱との比較)

すきな柄で
大喜び!



トイレで、間違
わずに捨てる
ことができた
よ!



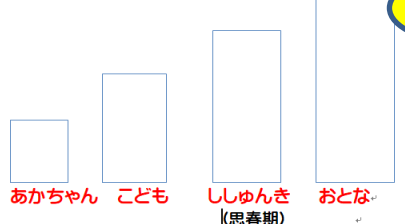
こどもと
おとなの
あいだを
「ししゅん
き」

比較・判断を取り入れたワークシート・ポートフォリオの活用

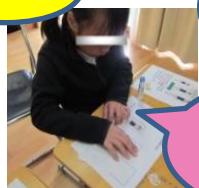
- ・児童の実態に応じてワークシートを作成した。
- ・まとめのワークシートでも再度定着を図り、ファイルに綴った。
- ・家庭に持ち帰り再度保護者とも連携を図った。

成長順に
イラストを
並べる活
動で使用
した、
Tさんの
ワーク
シート

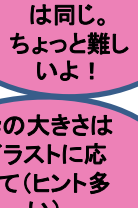
1. イラストをじゅんばんにならべよう



Tさん



Aさん



枠の大きさは同じ。
ちょっと難しいよ!

枠の大きさはイラストに応じて(ヒント多い)

イラスト等、児童の好むものを使用

- ・子宮のかわいいイラストが言っている言葉を、なりきって言う。興味関心のない分野でも、好きな雰囲気イラスト・柄等を使い、保健の授業をプラスのものとしてとらえてもらうようにする。



実態に応じた授業作り③「はずかしい」ことへの理解

課題に応じた場面設定

実態: 肌着を見られてははずかしい、見てははずかしいという気持ちを理解させる必要があった。いかにして「はずかしい」という気持ちを学ばせるかを考えて授業づくりをした。

第2・第3次の授業で4つの場面を設定

- ・生理のことは大声で言わない
- ・生理のことは女の先生に話す
- ・足を広げてすわらない
- ・カーテンをしめて着替える(カーテンの外に肌着ででてこない)

留意点:

- ・まずはルールから教える(イラストと○×でわかりやすく)
- ・児童が自分でよい例を実演
- ・ワークシートの吹き出しに記入する活動を入れる
- ・授業後も繰り返し、日常生活の中で指導(担任・家庭との連携・授業で使ったイラストを着替えの場所に貼る)

(お友達の
肌着をみて)
OOOOO!



パンツは
みせない!
足はひろげ
ない



児童の変容(研究の目的の達成)

- ・授業の流れの基本形や教材を実態に応じて工夫したことで、興味関心のない分野でも離席等なく予想以上に集中して授業にのぞめた。(Tさん)
→全く興味関心がない分野から、興味関心の芽生えの第1歩へ...
- ・意欲的に授業に参加し、自分の選んだ答えの根拠を言葉にできた。(Aさん)
- ・具体物を使用しワークシートでも繰り返し学習することで実技が上手にできた。

考察

- ・教材と共にSシートを用いることで、担任との打ち合わせで活用しやすかった。
- ・個々の目標を設定することで、押さえるべき箇所(発問のタイミング・仕方・ワークシートの実態に応じた構成等)が明確になり、授業デザインを工夫しやすくなった。
- ・ワークシートをファイルに綴り持ち帰ることで、家庭との連携につながった。
- ・ワークシートに比較・判断する場面を取り入れることで、児童の理解の程度を把握・確認することにつながった。知識の定着にもつながる活動になった。

課題

- ・今後二人に生理がきた時の受け止めや処置の実際からも、継続的な指導や評価が必要である。
- ・マナー面は男女とも今後も深める必要があり、日々の繰り返しが必要である。
- ・はずかしいこと・羞恥心については、一連の授業を通して、将来、性被害の予防にもつながることを考えて取り扱ったが、今後も検討していきたい。